

『ボクのいしぶみ巡り①』

地震で生れ変わった美田

平野富雄（大井町）

いつの頃からか私は地震に関する石碑に興味をもち、各地に眠っているこれらの石碑をもう一度見直してみようと思いました。

この石碑は金田村(現大井町)の図のところに立っていますが、今では殆ど立止って見る人もありません。

当時(大正十年頃)、このあたりの水田 190 町歩(1.9 平方町(1.9 km²))は土壌こそ肥沃でしたが、畦畔は迂曲し、排水も不完全で農民はいつも憂えていました。

「偶大正十二年九月一日、曠古の震災に遭い地盤に凸凹を生じ田面は亀裂し水路亦壊滅し被害甚大なりしによって、俄に復興の議起り、明年五月県に踏査を請い測量設計を記し十四年三月整理組合設立の許可を得て着工す」と石碑に記されており、あの悲劇の大地震が契機となって、“禍を転じて福となす”のたとえで、それから十二年たった昭和十一年には足柄平野随一の美田が生れたのです。

この石碑が建てられたのは耕地整理が完了した昭和十一年の十一月で、砂田元農林政務次官の題字によるものです。

(この項終わり)



『ボクのいしぶみ巡り②』

列車呑みこむ山つなみ

平野富雄（大井町）

関東大震災で根府川駅の受けた被害は夥しいものでした。

この附近一帯で起った山つなみは、駅舎、官舎、構内線路はおろか、下り109列車(十二時一分発)もろとも、眼下の相模湾に呑みこんでしまったのです。このときの殉難者は三百二十五名で、その中には駅員五名も含まれていました。以来、根府川駅の職員は、関東大震災のことを語り継いできました。それだけではなく、石碑に残して後世まで地震の怖しさを伝えるとともに旅客安全への願いをこめて、五十年目の昭和四十八年九月一日に石碑が建立されました。

この石碑は駅員が近くの海岸で石を拾い、書をかき近在の石材店が協力して出来上ったのです。なお駅には昭和十七年の鉄道記念日に編集された「駅史」があり、その中には関東大震災記録の項目もあって当時の悲惨な出来事が記録されています。



『ボクのいしぶみ巡り③』

横浜公園と地震碑

平野富雄（大井町）

関内駅で降りて県庁まで歩いて行く間に六つの石碑が見られます。驚くことにそのうちの二つが関東大地震と関係があるのです。

今回は、横浜公園内にポツネンと置かれている碑をご紹介します。

『横浜公園は明治九年創設せる我国最古の公園なり。・・・中略・・・同四十二年に至り改造に着手して漸く整美を得たり。斯して大正十二年九月大震災の際本市の大半猛火に蔽はるるや多数の市民は縁陰池辺に避難して危くも九死に一生を得たり。・・・後略 昭和四年二月 横浜市長 有吉忠一』

都市の中の公園は、ひごろは市民の憩の場ですが、災害時の避難場所としてもその必要性が叫ばれています。この碑を、ぜひ都市計画を推進している方々に見て戴きたいものです。

